

INDEX

日本教育工学会 第29回全国大会の御礼.....	2
2013年度 夏の合宿研究会報告.....	3
研究会の開催「テーマ：新時代の学習評価／一般」.....	4
研究会の発表募集「テーマ：エンタテインメントを活用した教育／一般」.....	5
日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集.....	6
「特集：1人1台端末時代の学習環境と学習支援」のご案内（第四報）	
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第一報）.....	8
日本教育工学会 第15期 第3回 理事会 議事録.....	9
日本教育工学会 第15期 第4回 理事・評議員会（合同）議事録.....	10
新入会員.....	11

日本教育工学会 第29回全国大会の御礼

日本教育工学会 副会長 吉崎静夫（日本女子大学）

日本教育工学会の第29回全国大会が、09月20日（金）から23日（月）の4日間にわたり秋田大学で開催されました。834名という多くの教育工学関係者が、日頃の研究成果にもとづいて活発な議論を展開しました。このように成功裏に大会を終えることができましたことを心より御礼申し上げます。これもひとえに、会員の皆様をはじめ多くの関係者（特に、秋田大学の関係者）の方々のご支援ご協力のおかげと感謝申し上げます。なかでも、斬新で魅力あふれる大会プログラムを企画していただいた、美馬のゆり大会企画委員長をはじめとする大会企画委員会の皆様、「もてなし」の心を大会運営に具現化して下さった、浦野弘大会実行委員長をはじめとする大会実行委員会の皆様には、心から御礼申し上げます。21日（土）を除いては天気にも恵まれ、本当に充実した気持ちのよい大会でした。昼休みの時間に、秋田大学の皆様によって揚げられた「竿燈」は、澄み切った秋空に輝いていました。

今回の大会では、ワークショップが第1日目の午後に行なわれました。多様なテーマで6つのワークショップが活発に実施されました。特に、秋田大学附属小学校授業公開と連携したワークショップ「実践をいかに記述・記録するか」は、実践研究の活性化をめざす本学会の方針に符合するものであり、秋田大学の関係者の思いが伝わるものでした。次に、シンポジウム「学習資源のデジタル化がもたらす未来の学び」では、研究者、行政（文科省）、企業の立場から、国内外の「学習環境のデジタル化」に伴って、どのような「学び」の変化がもたらされるかについて具体的で示唆に富む報告がなされました。そして、このシンポジウムをさらに実り豊かなものにさせたのは、これらの報告に対する指定討論者（佐伯胖教授）の鋭いコメントでした。デジタル化は、学習者に対する指導者の視点を三人称（客観的ではあるが、当事者性に欠けること）にさせがちであり、教育において大切な二人称（当事者性をもって関わること）が欠落されがちであるということでした。さらに、昨年の学会に続いて企画されたトークセッション「理論と現場をつなぐ」は、教育工学がもつ幅の広さと、奥の深さを参加者一同に実感させるとともに、教育工学が現場のさまざまな課題を解決できる学問であることを力強く示すものでした。学習科学・認知科学の分野で多大な業績をあげている三宅なほみ教授のロングスピーチは、学校での協同学習の成果を具体的な事例をもって示すとともに、研究者が教育現場とどのように関わっていくべきかを示唆するものでした。そして、次世代を担う5名の若手教育工学者と、被災地で学校を運営するNPOの実践家の方々は、自らの実践研究や活動を一人称の視点から熱く語ってくれました。

課題研究発表、一般研究発表、ポスター発表は、どの会場でも今後の教育工学研究の発展につながる熱心な議論が展開されたことを、大変嬉しく思います。次回の全国大会は、第30回の記念すべき大会として、岐阜大学で開催されます。多くの皆様の参加をお願いいたします。

2013 年度 夏の合宿研究会報告

2013 年 07 月 27 日 (土) 信州大学附属長野小学校, 28 日 (日) 信州大学教育学部にて, 2013 年度夏の合宿研究会が, 「附属学校の取り組みから考えるタブレット端末の活用」というテーマで開催されました. 教育関係者 87 名, 企業関係者 37 名, 行政 6 名の計 130 名と, 多数の参加者がありました.

27 日 (土) は附属学校の実践報告を行いました. 信州大附属長野小学校の報告として畔上副校長から, 「学び方・わかり方の総合化」を図るための ICT 活用の方向性が示され, 宮下・富岡教諭からは, 3D ソフトを活用した算数の実践が紹介されました.

奈良教育大附属小・中学校からは, 小柳教授, 櫻本副校長および竹村教諭から, ICT 活用指導力向上に資する教材やカリキュラム開発の計画が報告されました. 新潟大学附属新潟小学校の片山教諭からは, デジタル端末を活用した総合的な学習の授業作りの取り組みとその実践の様子について, 動画や様々な実践のノウハウも交えながら報告されました. 東京学芸大学の加藤准教授からは, 同附属校の ICT 環境の状況と共に, 遠隔授業観察・収録・配信システムについて報告されました. 休憩も兼ねたデジタル屋台では, 7 社から教材やシステムのデモと開発コンセプトが紹介されました.

後半では, 上越教育大学附属中学校の寺田教諭から, フューチャースクール等での豊富な実践について報告がされました. 横浜国立大学附属横浜中学校の大内教諭からも, 同様にタブレット PC での協働学習やデジタル教科書活用の事例紹介がされました. 宮城教育大学附属小学校の永野教諭からは, タブレット PC を活用した 2 年生図工や 3 年生国語, 5 年生総合等の豊富な実践が報告されました. 宮城教育大学附属小学校の浅水教諭からもタブレット PC を活用した各教科の実践, さらにスマートフォンを利用した技術科の教材の紹介もなされました.

以上の報告を受け, フリートークとして他の附属参加校の ICT 活用における状況や課題について紹介してもらう等, 活発な情報交換がなされました. そして 1 日目のまとめとして, 大久保委員長からシンガポール, 韓国, 台湾等, 海外の教育の情報化や最新事情について, 経験も交えながら紹介されました.

28 日 (日) は, まず奈良教育大学の小柳教授から 21 世紀に求められる能力を育成する教員養成の事例紹介として, 大学院での授業の様子が紹介されました. 続いて長野県総合教育センターの有賀専門主事から, ICT 活用の教員研修の概要や研修事例が紹介されました. そして, 静岡大学の益川准教授から, 「21 世紀型スキルと教員養成・研修」をテーマに講演がされました. 講演内のグループワークでは, 参加者相互に活発な意見交換ができました. まとめとして, 2 日目の内容について意見交換がなされ, 2 日間の合宿を閉じました.

今回の合宿研究会は附属学校が複数集まり, ICT 活用について報告・議論する初の試みでしたが, 参加者からも好評の声を多数いただきました. なお, 今回の研究会運営では, 附属長野小学校の先生方には多大なご協力をいただきました. この場を借りて感謝申し上げます.

文責: 村松浩幸 (信州大学)



27 日 (土)・附属各校の実践報告



28 日 (日)・グループワークで議論

研究会の開催

研究会
2013

テーマ 新時代の学習評価／一般

- 日 時：2013年10月26日（土）
- 会 場：兵庫医科大学 西宮キャンパス・9号館5階
(〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号)
- 担 当：藤原康宏 (yfuji@hyo-med.ac.jp)

プログラム

発表時間：発表1件につき24分（発表19分，質疑5分）

会場(9-3 講義室)

09:55-10:00 諸連絡

10:00-12:05 午前の部

- 1) Google ドキュメントを利用したレポート作成過程の分析
宮本淳，仙石昌也，山森孝彦，久留友紀子，橋本貴宏（愛知医科大学）
- 2) 批判的思考態度を育むためのレポートライティング教育の実践と評価の試み
池田史子，畔津忠博（山口県立大学），川島啓二（国立教育政策研究所）
- 3) 項目反応理論を用いて適応的ヒントを提示する足場かけシステム
松尾淳哉，山本美紀，植野真臣（電気通信大学大学院）
- 4) プロジェクトマネジメント「段取り力」を学ぶ高大連携での出張講義の事例報告
酒井浩二，乾明紀（京都光華女子大学）
- 5) 非工学系学生及び工学系学生を対象としたものづくり型 PBL カリキュラムの構築に関する研究
大崎理乃，三浦将司，桐山聡（鳥取大学）

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-15:15 午後の部-第一部

- 6) タブレット端末を活用した協働型授業に対する ICT 活用初期段階の教員らの評価分析
森下孟（鹿児島大学），東原義訓（信州大学）
- 7) 1人1台端末の学習環境における ICT 教育の試み
難波道弘，杉浦学，秋月拓磨，後藤晶（山梨英和大学），高橋弘毅（長岡技術科学大学）
- 8) タブレット端末を用いた教育実践報告
高橋弘毅（長岡技術科学大学），難波道弘（山梨英和大学），
宿院頼，近藤美和，藤巻小百合（山梨英和中学校・高等学校），杉浦学，秋月拓磨（山梨英和大学）
- 9) 即興型の英語ディベートを用いた学びに関する基礎検討
中川智皓（大阪府立大学）
- 10) 情報科用ゲーム型 e-learning 教材設計フレームワークの改善－学習者モデルの検討結果に基づき－
松田稔樹（東京工業大学大学院）

15:30-17:35 午後の部-第二部

- 11) 教えることについての態度尺度作成の試み
早坂昌子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- 12) オンライン大学に入学した社会人の入学動機の分析
田中理恵子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- 13) eラーニングとシミュレーションを組み合わせた患者急変時対応研修の効果
杉浦真由美（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- 14) 批判的思考態度とメディア特性の理解の関係
後藤康志（新潟大学）
- 15) 著作権の権利侵害感に関する教員の特徴
山本光（横浜国立大学）

- 発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催しております。討論時間を確保するために、持ち時間 24 分において質疑応答の時間を 5 分以上は確保していただいております。よろしくご理解願います。
- 参加費用：参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金（3,500 円）を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として 1,000 円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。尚、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません。
- 交通案内：
 - <JR 新大阪駅より> JR 東海道線・大阪方面（下り）の電車に乗車し「大阪駅」で下車、阪神電車（梅田駅）に乗り換え、「武庫川駅」で下車、西出口より徒歩 5 分（約 30 分）
 - <大阪国際空港（伊丹）より> 「阪急西宮北口」行のリムジンバスに乗車し「阪神甲子園」で下車、阪神電車・大阪（梅田）方面に乗車し、「武庫川駅」で下車、西出口より徒歩 5 分（約 35 分）
 （参考：兵庫医科大学ホームページ http://www.hyo-med.ac.jp/guide/access/access_guide.html）
- 昼食案内：当日は、休校日のため学生食堂は営業していませんが、病院内のカフェテリアや売店は営業しています。また、大学周辺にも飲食店があります。
- 喫煙：受動喫煙防止のため、本学敷地内および周辺道路は、全面禁煙となっております。また、喫煙スペースも設けておりません。

研究会の発表募集

テーマ： エンタテインメントを活用した教育／一般

- 日 時：2013 年 12 月 14 日（土）
- 会 場：徳島大学（担当：光原弘幸）
- 申込締切：2013 年 10 月 13 日（日）
- 原稿提出：2013 年 11 月 03 日（日）

●募集内容：

近年、教育の多様化が進んでおり、その 1 つとしてエンタテインメントを活用した教育が注目されています。映画、演劇、ゲームなどエンタテインメントの領域は広く、それを活用した教育もまた多様な可能性を有しています。本学会全国大会ではこれまでに、ゲームと教育・学習の融合をテーマにした課題研究やワークショップが企画され、多くの発表と活発な議論がありました。今年の全国大会でも、課題研究「ゲーム型学習の導入と実践の評価」が企画されており、さらなる発展が期待されます。

そこで、本研究会では、エンタテインメントを活用した教育に関するアイデア、システム開発、実践・評価など幅広く発表を募集し、議論したいと思っております。また、従来通り、上記テーマにこだわらず教育工学一般の発表も募集します。

●申込方法：研究会 Web ページよりお申し込み下さい。

●原稿執筆：締切後 1 週間以内に、申込時に登録されたメールアドレス宛てに発表の採択結果と執筆要項をお送り致します。

●原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。なお、期限までにご提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。

今後の研究会のご案内

2014 年	会場	申込締切	原稿提出締切
03 月 01 日（土）	教師教育と授業研究／一般 愛知工業大	01 月 05 日（日）	01 月 26 日（日）

年間予約購読のお勧め

- 年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）。研究会の受付でも年間購読を受け付けております。

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集
「特集：1人1台端末時代の学習環境と学習支援」のご案内（第四報）

ノート PC やタブレット PC, スマートフォンなどの情報端末の所有率が高くなり, 各自が端末を持ち歩く時代を迎えています. これを受けて, 小・中・高等学校, 大学等の高等教育機関, 企業等において, これらの1人1台端末による学習環境に高い関心が集まっています. そのため, 1人1台端末を活用した実践, 環境整備における機種選定や空間配置などの配慮事項, 学習用コンテンツの提供方法, 学習者に求められる情報活用能力, 学習履歴の活用, 整備された学習環境における ICT 支援員の役割, 従来の学習環境と比較した場合の学習効果などに関する研究成果が期待されています.

本特集号では, 拡大しつつある1人1台端末時代の学習環境と学習支援に関する研究成果を募集します.

1. 対象分野

- (1) 1人1台端末を前提とした授業設計, 学習環境デザイン
- (2) 1人1台端末を前提とした学習用コンテンツの開発と提供方法
- (3) 1人1台端末を前提としたソフトウェア・教育システムの開発
- (4) 1人1台端末を活用した授業実践とその効果
- (5) 1人1台端末を活用した講義配信, 反転授業, 協調学習, アクティブラーニング
- (6) 1人1台端末におけるソーシャルメディアの利用
- (7) 1人1台端末による学習履歴の活用などの学習評価の方法
- (8) 1人1台端末の学習環境に求められる教員の ICT 活用指導力
- (9) 1人1台端末の活用を対象とした教員養成・研修プログラム
- (10) 1人1台端末の学習環境における ICT 支援員の役割

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に, 「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します. それぞれの論文種別については, 投稿規定をご覧ください.

論文の査読は, 通常の論文誌の場合と同じです. ただし, 査読は2回限りとし, 編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません. 「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが, 単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので, ご注意下さい. なお, 本特集号へ投稿された論文が特集号編集委員会にて対象分野外と判断された場合には, 一般論文として扱うこととなりますので, あらかじめご了承ください.

特集号編集委員会では, 本特集号のテーマの特徴から, 1人1台端末時代の学習環境と学習支援に関する実践を「教育実践研究論文」, あるいは「資料」の条件を満たすようにまとめ, 積極的に投稿していただくことを期待しています.

3. 論文投稿締切日 (2014年11月発行予定)

投稿原稿を02月05日(水)までに電子投稿をお願いします. ただし, 02月12日(水)までは, 論文を改訂することができます. 締切の延長は行わない方針です.

投稿原稿提出締切 (電子投稿): 2014年02月05日(水)

最終原稿提出締切 (電子投稿): 2014年02月12日(水)

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用 Web サイトから電子投稿して下さい。郵送による投稿は受け付けませんことになりました。

5. 問い合わせ先

日本教育工学会事務局

Tel/Fax : 03-5740-9505

電子メール : tokushu2014@jset.gr.jp

6. 特集号編集委員会

編集委員長 :

堀田龍也 (玉川大学)

副編集委員長 :

小柳和喜雄 (奈良教育大学)

山内祐平 (東京大学)

編集幹事 :

望月俊男 (専修大学)

森本康彦 (東京学芸大学)

委員 :

稲垣 忠 (東北学院大学)

緒方広明 (徳島大学)

加藤 浩 (放送大学)

木原俊行 (大阪教育大学)

向後千春 (早稲田大学)

清水康敬 (東京工業大学)

鈴木克明 (熊本大学)

高橋 純 (富山大学)

寺嶋浩介 (長崎大学)

中橋 雄 (武蔵大学)

東原義訓 (信州大学)

村上正行 (京都外国語大学)

矢野米雄 (徳島文理大学)

山田政寛 (九州大学)

渡辺健次 (広島大学)

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第一報）

日本教育工学会論文誌 vol.38, Suppl.の発行

論文受付締切：2014年04月01日（火）

日本教育工学会論文誌vol.38, Suppl.は、年1回発行されるショートレターの増刊号です。奮ってご投稿下さい。

投稿規定に記述しているように、以下のようになっていますのでご注意ください。

1. ショートレターは、教育工学に関する、実践的な研究成果、新しい試みやその結果等、教育システム開発等を記述したもの。新規性（オリジナリティ）は必ずしも高くなくても、実践研究の方法と成果を明確に記述したものです。
2. 刷り上がり4ページ厳守です。（4ページを超えるものは採録しない）
3. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等を行うことが必要です。なお、各会員はショートレターを年1偏に限り投稿できます。
4. 2014年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育システム開発や教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターとして掲載されたものを一層充実させて、論文あるいは資料としての条件を満たすように記述したものは、論文あるいは資料に投稿

できます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけて下さい。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にして下さい。

ショートレターの査読日程予定

(2014年度)：

- 04月 担当及び査読者の指名
- 05月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 07月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 09月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 ショートレター増刊号発行予定

投稿の仕方：

原稿は、「投稿規程」と「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。会員のIDとパスワードが必要です。

投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています。

問い合わせ先：

日本教育工学会事務局

電子メール：short@jset.gr.jp

Tel/Fax：03-5740-9505

日本教育工学会 第15期 第3回 理事会 議事録

日 時：2013年09月09日（月）～2013年09月13日（金）

場 所：電子メール等を利用した電子会議

出 席（参加者）：

理事 山西潤一会長，赤倉貴子副会長，中山 実副会長，吉崎静夫副会長，
赤堀侃司，稲垣 忠，大久保 昇，大谷 尚，小柳和喜雄，加藤 浩，木原俊行，
黒上晴夫，三宮真智子，鈴木克明，寺嶋浩介，中原 淳，南部昌敏，永岡慶三，
東原義訓，堀田龍也，美馬のゆり，村川雅弘，室田真男（合計23名）

監事 近藤 勲，永野和男（合計2名）

※会長より，電子メール会議の開催に先立って会議の手順が説明された．資料送付後4日間メーリングリストによる審議を行うこと，全議題に対して承認の可否を問うメールを改めて送り，議案を承認することとした．

1. 前回の理事会議事録の承認について

- ・第15期第2回理事会の議事録を承認した．

2. 新入会員の移動について

・会員の移動について承認した．案内をしても返事が返らないステータス不明者のうち過去3年間会費未納の場合に除籍することを承認した．

- ・09月13日（金）現在の会員数は2,792名である．

3. 各種委員会からの報告・審議

(1) 編集委員会

- ・論文誌編集進捗状況（一般号，特集号，ショートレター，英文誌）について説明があった．
- ・木原理事が2014年度のショートレター増刊号編集委員長になる旨を承認した．

(2) 研究会委員会

- ・10月開催の研究会の準備状況について報告された．

(3) 広報委員会

- ・ニューズレター（Vol.196）の台割案および原稿依頼先が提案された．

4. その他

(1) 以下の協賛依頼を承認した．

- ・DPS(Digital Signal Processing Systems)教育会議への協賛
- ・シンポジウム「モバイル'14」への協賛
- ・「高校教科「情報」シンポジウム2013秋ジョーシン2013秋」への協賛
- ・「第24回教育システム若手の会」への後援

(2) 今後の理事会

- ・今後の理事会日程が確認された．

日本教育工学会 第15期 第4回 理事・評議員会（合同）議事録

日時：2013年09月21日（土） 12:30～14:00

場所：秋田大学（手形キャンパス）教育文化学部3号館 150教室

出席：

（理事）山西潤一会長，赤倉貴子副会長，中山 実副会長，吉崎静夫副会長，赤堀侃司，大久保 昇，小柳和喜雄，加藤 浩，久保田賢一，三宮真智子，鈴木克明，寺嶋浩介，東原義訓，堀田龍也，永岡慶三，中原 淳，南部昌敏，前迫孝憲，美馬のゆり，村川雅弘，室田真男

（評議員）石塚丈晴，今井亜湖，植野真臣，浦野 弘，黒田 卓，高橋 純，西森年寿，平嶋 宗，益子典文，村上正行，望月俊男，森田裕介，山内祐平

（監事）永野和男

（合計 35 名）

欠席：

（理事）稲垣 忠，大谷 尚，木原俊行，黒上晴夫

（評議員）岡本敏雄，田口真奈，永田智子，野中陽一，柳沢昌義，柏原昭博，向後千春

（監事）近藤 勲

（合計 12 名）

1. 全国大会の実施規模等について

- ・山西会長より，秋田大学での全国大会の開催について謝意が示された。
- ・秋田大学の浦野全国大会実行委員長より挨拶および参加者数が報告された。
- ・美馬大会企画委員長より，事業報告および開催校に対する謝意が示された。

2. 前回議事録の承認について

- ・第15期第3回理事会（電子メールによる）議事録が承認された。

3. 各種委員会から

- ・山西会長および三宮顕彰委員長より，研究奨励賞の選考方法を今後審議していくことが報告された。
- ・吉崎副会長より，編集委員会の体制について報告された。また，日本教育工学会論文誌の英文誌をさらに学会の国際化を推進するために役立てる方策を検討中であることが報告された。

4. 今後の学会の活動について

・山西会長より，本学会は1984年11月に発足しており2014年11月に30周年を迎えること，2014年全国大会は岐阜大学で行われる予定であり，全国大会のプログラムに30周年記念行事の企画を盛り込む予定であること（担当：大会企画委員会）が報告された。2015年の総会シンポジウム時にも30周年記念行事の企画を考えていくこと（担当：企画委員会）が報告された。また「教育工学選書」の第2期の検討や，本学会としての科研費による研究について新規応募の予定があることが報告された。

- ・出席評議員に意見が求められた。
 - －開催校として授業公開をした教員が研究者と議論でき喜んでいて。
 - －ワークショップ前日開催は望ましい。もう少し時間が長くてよい。
 - －学会としてのチュートリアルの実施を考えてほしい。
 - －全国大会に海外から発表に来るような状況を作るよう期待したい。
 - －論文投稿数が増加し，査読者不足の現状がある。査読者へのインセンティブの検討が望ましい。
 - －学会論文の電子化は望ましい。早めに入手できるとありがたい。
 - －社会で起こっている技術的な課題について，学会として提言できると望ましい。
 - －大学の講義をオンライン提供する事業が進んでいるので，学会としての対応が必要。

5. その他

・2014年05月以降の理事会開催日程が必要であることが指摘され，山西会長から至急対応する旨，確認された。

・今後の理事会は以下のように予定されている。

第15期 第5回 理事会 2013年11月16日（土）日本女子大学（目白キャンパス）

第15期 第6回 理事会 2014年01月18日（土）電子メールによる

第15期 第7回 理事会 2014年03月15日（土）日本女子大学（目白キャンパス）

第15期 第8回 理事会 2014年05月10日（土）日本女子大学（目白キャンパス）

以上

新入会員

(2013年07月06日～2013年08月26日) 108名 (正会員: 33名, 准会員: 10名, 学生会員: 65名)

■正会員 (33名)

栗山和広 (愛知教育大学)
山形伸二
(独立行政法人大学入試センター)
及川浩和 (中日本自動車短期大学)
徳弘太郎 (Yamaha 推進室 SLP PJ)
カッティング美紀
(立命館アジア太平洋大学)
南学 (三重大学)
長田睦雄 (関西大学大学院)
藤井善章 (信州大学教育学部)
村松みゆき (星美学園中学高等学校)
鈴木政浩 (西武文理大学)
豊田哲也 (国立情報学研究所)
杉山竜一 (株式会社パデコ)
塙雅典 (山梨大学大学院)
山野光裕 (山形大学)
高木亜希子 (青山学院大学)
安形輝 (亜細亜大学)
吉澤剛 (大阪大学大学院)
日比光治 (岐阜大学大学院)
野木森三和子 (サイバー大学)
後藤彰彦 (大阪産業大学)
藤田悠 (長野工業高等専門学校)
河内一了 (サイバー大学)
崔亮 (サービスサイエンス研究センター)
宣昌大 (摂津市立第三中学校)
武田祐一 (JR 東日本研究開発センター)
石谷康人 (事業創造大学院大学)
立石尚史
榊原暢久 (芝浦工業大学)
高田和典 (北海道札幌東陵高等学校)
熊谷たまき (順天堂大学)
前田康雄
鬼頭文隆
中川智皓 (大阪府立大学)

■准会員 (10名)

水谷徹平 (上越教育大学附属小学校)

楠浦崇央 (TechnoProducer 株式会社)
池田和浩 (尚綱学院大学)
草場実 (高知県教育センター)
福嶋政期 (東京大学)
千葉佑介
加藤大 (株式会社ファカルタス)
小島史子
安威誠 (㈱学研ホールディングス)
市原大輝

■学生会員 (65名)

中野瑠美子 (大阪大学大学院)
西進之介 (名古屋大学大学院)
佐藤祐太朗 (東京理科大学大学院)
佐々木健太 (岩手大学院)
荒木奈美 (北海道大学大学院)
赤羽脩 (筑波大学)
大福聡平 (関西大学大学院)
永島悠一 (上越教育大学大学院)
仲谷佳恵 (東京工業大学)
王世娟 (東京工業大学)
佐藤智紀 (公立ほこだて未来大学大学院)
田中理恵子 (早稲田大学大学院)
三井一希 (熊本大学大学院)
ファティンアミラ (富山大学)
戸川真理子 (日本女子大学大学院)
福田匡孝 (富山大学)
川村大地 (岩手大学大学院)
板垣翔大 (宮城教育大学大学院)
有常洋菜 (千葉大学)
長谷川健 (放送大学大学院)
宇根川悟 (広島国際大学)
高原尚樹 (広島国際大学)
日野高進 (広島国際大学)
米田貴 (関西大学大学院)
須田昂宏 (名古屋大学大学院)
石山琢子 (東京工業大学大学院)
権田駿 (電気通信大学院)
横山新司 (兵庫教育大学大学院)
伊倉康太 (早稲田大学大学院)

CarpioMarife (大阪大学大学院)
宮原菜月 (三重大学)
奉薇 (三重大学)
植松宗也 (東京学芸大学)
榎本命 (東京学芸大学)
藤井遥 (東京学芸大学)
内田陽介 (早稲田大学)
斉藤洋介 (広島国際大学)
京谷隆史 (和歌山大学大学院)
渡邊泰久 (静岡大学大学院)
岡本覚子 (東京工科大学大学院)
鶴井俊也 (拓殖大学)
林理慧子 (早稲田大学大学院)
小林達也 (拓殖大学)
谷口佳史 (静岡大学大学院)
藤井啓太 (静岡大学大学院)
居永通子 (上越教育大学大学院)
中澤由紀 (兵庫教育大学大学院)
佐々木諒 (山口東京理科大学大学院)
野村真唯子 (東京学芸大学)
豊田美咲 (九州工業大学)
彦坂和里 (静岡大学)
中垣浩平 (広島国際大学)
鈴木範子 (早稲田大学大学院)
岩崎徳子 (岐阜大学大学院)
村田維沙 (東京工業大学大学院)
中川歩香 (関西大学)
斉藤有吾 (京都大学大学院)
増岡由貴 (熊本大学)
江原直太郎 (千葉工業大学大学院)
石塚数之 (富山大学大学院)
今村理恵 (大阪大学)
解良優基 (名古屋大学)
中村絵里 (東京大学大学院)
杉山立 (上越教育大学大学院)
外山良史 (上越教育大学大学院)

以上

◎学会日誌

2013年

- ・2013年10月26日(土)
研究会「新時代の学習評価」(兵庫医科大学)
- ・2013年12月14日(土)
研究会「エンタテインメントを活用した教育」(徳島大学)

2014年

- ・2014年02月22日(土)～23日(日)(予定)
冬の合宿研究会「教育工学研究におけるアクション・リサーチ」(神奈川県近辺)
- ・2014年03月01日(土)
研究会「教師教育と授業研究」(愛知工業大学)
- ・2014年03月03日(月)
大学教員のためのFD研修会「大学授業デザインの方法 -1コマの授業からシラバスまで-」
(首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス)

◎国際会議の案内

2013年

- ・E-LEARN 2013
<http://www.aace.org/conf/elearn/>
(10/21-25, Las Vegas, USA)
- ・ICCE 2013
<http://icce2013bali.org/>
(11/18-22, Bali, Indonesia)

2014年

- ・SITE 2014
<http://site.aace.org/>
(3/17-24, Jacksonville, USA)
- ・ACHI 2014
<http://www.iaria.org/conferences2014/ACHI14.html>
(3/23 - 27, Barcelona, Spain)
- ・eLmL 2014
<http://www.iaria.org/conferences2014/eLmL14.html>
(3/23 - 27, Barcelona, Spain)
- ・CSEDU 2014
<http://www.csedu.org/>
(4/2 - 4, Barcelona, Spain)
- ・EdMedia 2014
<http://www.aace.org/conf/edmedia/>
(6/23 - 27, Tampere, Finland)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2013@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について
のお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

担当副会長：赤倉 貴子(東京理科大学)
広報委員長：南部 昌敏(上越教育大学)
幹事：高橋 純(富山大学)
委員：石塚 文晴(福岡工業大学短期大学部)
富永 敦子(早稲田大学)
堀田 博史(園田学園女子大学)

E-mail : kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail : office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 196
2013年10月11日

発行人●会長 山西 潤一(富山大学)